

式 辞（令和 8 年度短期課程機械科（前期）修了生への校長メッセージ）

この夏は、記録的な猛暑が続いていましたが、このところ、ようやく、朝夕はずいぶん過ごしやすい気候となって参りました。

長野県南信工科短期大学校短期過程機械科の修了生は、この猛暑にも耐え、本日、無事に修了式を迎えることができました。

修了生の皆さん、誠におめでとうございます。教職員を代表して心よりお祝い申し上げます。

また、ご多用のところご臨席賜りましたご来賓の皆様方におかれましては、日頃から、南信工科短期大学校に対し、多大なご支援・ご協力をいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

さて、本校が設置されています上伊那地域は、高い技術を持つ企業や研究開発型企業が活発な活動を展開しています。

本校は、この上伊那をはじめ、南信地域の皆様の厚いご期待と多大なるご支援をいただき、平成 28 年（2016 年）4 月に開校しました。お陰様で、本年で 11 年目を迎えることができました。

本校設置の主たる目的は、将来の地域の「ものづくり産業」を担う「地域中核人材」の育成です。本校では、急速に進展する技術革新（イノベーション）にも柔軟に対応できる専門知識と技術・技能を兼ね備え、地域のリーダーとして積極的に活躍する実践技術者（ものづくりのスペシャリスト）を育成しています。

特に、機械科では、伝統的な金属加工機器から最新のデジタル機器を操る技能・技術を習得し、即戦力のものづくりのスペシャリストの育成を目指しています。お陰様で、短期過程機械科の修了生は、令和 8 年度前期の 21 期生を含めて、これまで 144 名を数えます。

修了生は、普通学科、基礎学科と専攻学科の座学の授業で得た機械工学の知識を基に、基礎実技および専攻実技の実習授業で最先端の技術・技能をも身につけ、機械科を修了されます。

この半年間の濃密な授業や学生生活を通して何が一番印象に残っていますか。

思い出に残ることがあろうかと推察しますが、本校の授業を通して、「ものづくりの難しさとそして楽しさ」を再確認されたことこそが、これからの社会生活を支える拠り所のひとつとならんことを願っています。

人口減少の進行や物価高騰の影響が続く中、社会や経済を取り巻く環境は依然として不透明な状況にあります。

また、A I ・ I o Tをはじめとするデジタル技術の急速な進展は、産業構造や企業活動の在り方、さらには働き方そのものに大きな変化をもたらしています。

こうした中で、社会が持続的に成長していくためには、「学び」により、一人ひとりが能力や技能を高め、各産業における付加価値労働生産性の向上を図ることが重要になります。

修了生は明日から元の職場に戻られますが、本校で培った知識と技術・技能にさらに磨きをかけ、自らの進むべき道を切り開いて行かれることを強く期待しています。

長野県南信工科短期大学から巣立ちゆく赤羽さんの輝かしい未来を心から願い、校長からの式辞と致します。

令和8年（2026年）9月11日

長野県南信工科短期大学校長 武田 三男